2022.4.21.
T.Kobayashi

三ツ目通りと四ツ目通り
ここにもあった番号順の橋の名前

豊洲でサラリーマン生活をしている頃に、バスやタクシーで木場に向かう時には三ツ目通りを通り、東陽町・錦糸町に向かう時には四ツ目通りを通った。
不思議な名前の道路だなと思ってはいたが、調べもしなかった。退職後は時間に余裕ができたせいか、町へ出ても様々な景色がきちんと眼に入るようになり、不思議に思うものも数多く発見できるようになった。そして疑問を感じると、調べてみる。調べてわかると、また次の興味や疑問が湧いてくる。
そんな事を繰り返している日々・・・・
東京に三ツ目通りと四ツ目通りがあるが、一ツ目、二ツ目、五ツ目、六ツ目はないのか。
何故こんな名前の道路があるのだろう？

江戸時代に低湿地で水害に弱い本所・深川の再開発を行い、川と川とをつなぐ水路を開削して河川の排水能力を高め、掘り出した土砂を嵩上げに使用する大工事に着手した。水害対策と同時に水運の強化にもつながり、さらに防火対策としての街作り策でもあった。
1659 年（万治 2 年）に切り拓かれたのが「竪川堀（たてかわぼり）」。
現在の両国橋のやや南の隅田川が蛇のようにうねる所が切り口になり、ここから東へほぼ一直線に進み、中川までを結ぶ約 5Km。
そして、主要な場所に橋が架けられて南北に走る道路も整備された。隅田川を起点として橋には順番に「一ツ目之橋」「二ツ目之橋」「三ツ目之橋」と名前が付けられた。三ツ目之橋と四ツ目之橋の中間点あたりで、南北に開削された「大横川」と交差し、四ツ目之橋と五ツ目之橋の間では「横十間川」と交差する。
それぞれの橋を渡る南北に走る道には、一ツ目通り・二ツ目通り・三ツ目通り・・・と名が付けられた。
一ツ目之橋を通る道は、回向院の西側から萬年橋の方へ走る道で、現在道路名は付いていない。
二ツ目之橋を通る道は現在の清澄通り、三ツ目之橋を通る道は現在の三ツ目通り、四ツ目之橋を通る道は現在の四ツ目通り、五ツ目之橋を通る道は現在の明治通りとなっている。
六ツ目之橋が架かっていた所は、中川との合流点のわずか手前だったが、橋を渡る南北の道に名は付けられなかったらしい。
橋の名前は一之橋、二之橋、三之橋、四之橋、五之橋など名前が残っているものもあるが、竪川そのものは首都高速道路に覆い被さられてしまい、コンクリートで封印されてしまったり、埋められて緑地公園や親水公園などになってしまった所もある。
現在、五之橋と六之橋の間には、竪川大橋と新六之橋が架かっている。竪川大橋を渡る南北の道路の名は丸八通り。明治時代に道路沿いにあった丸八線香店の名が道路名の由来らしいが、橋や道路の整備にあたりこの店が一役担ったことが関係しているらしいが、詳細はわからない。

こうしてできた水路の名前には、十間堀・五間堀・三十間堀など水路の幅を意味しているものが多かった。当時は堀割の名前を聞いただけで、どのぐらいの船が通れそうか判断できて、水運にも役立ったらしい。こうして名前が残っていれば歴史の認識もしやすいし、わかりやすいので親しみも感じる。
江戸時代の水路（運河）を現代の地図に重ね合わせた資料を見て、全体像を再確認している内に、次なる疑問が湧出してきた。
竪川は地図を左右（横・東西）に走っているのに竪川と名が付いたのはなぜだろう。
さらに地図を見続けると、竪川と交差して南北（縦）に走る水路に大横川と名が付いている。
江戸城から隅田川方面を見て、縦に走るのは竪川、横に走るのが横川ということだとわかった。

古地図を見ると、地図を描いた者が見た方角で描かれていて、東西南北の方角を示すイラストが欄外に書いてあるものが多い。北を上にして描く現代の地図の常識から見ると思いつかないことだった。

番号順に並んだ道路の名前に興味を持ったのがきっかけで、様々なことが分ってきた。
江戸時代に行われた、水害対策と水運の基盤整備、大火に強い街作りなどを中心とした都市再開発の大きさや意味を再認識した。

以上